

挙母祭り

令和七年

試楽 しんがく

10月
18

土

本楽 ほんがく

19
日



「八輦の山車」

愛知県指定有形民俗文化財

今年の華車「神明町」
毎年、八輦の並び順が入れ替わり、
境内へ最初に曳き込まれる山車を
華車と呼んでいます。

交通 ACCESS

◆ 車で ◆

各インターから15分～25分
神社には駐車場はありません。
周辺の有料駐車場をご利用ください。

◆ 電車で ◆

名古屋鉄道 豊田市駅下車
愛知環状鉄道 新豊田駅下車



主 催： 挙母神社・挙母祭り保存会 発 行： 挙母祭り保存会

協 賛： (一社) ツーリズムとよた / トヨタ自動車株式会社 / ひまわりネットワーク株式会社 他

● 公式hp <http://www.koromomatsuri.com/>



「八輜の山車」

華車 神明町

神明町の山車の特徴は、大幕に他町のようないくつかの歴史的な出来事や人物が刺繍されていない事である。これは町名を神明町と称する通り、町内に神明神社を祀り、山車そのものを神明社の成り代わりとして表現しようとした事にある。神明神社の御祭神である和童子（天照大神の幼名）の姿を現世に表したものと伝わっている。その姿は白衣に緋（赤）の袴を着け、水上に立つ神である事から白・緋の幕で表現している。

また水引幕には緋地に黒・一色で刺繍された八羽の鶴のみとなっている。神明町は江戸時代の五町曳きでは常に先導を務めていた。神武天皇東征のおり、大和の山中に迷い、八咫鶴の先導で無事に吉野に着く事が出来たという故事に因み、山車の先導役に相応しい図柄となった。幕の右側の三羽（実際には二羽）は朝里に出る陽の鶴を示し、左側の四羽は夕暮れの山に帰る陰の鶴、そして後部の一羽が八咫鶴といわれている。

天明2年（1782年）度重なる水害を恐れ、挙母城が童子山に移転した際、神明町の一部住人が神明社と共に小坂に移ったため、神明・小坂両町合同で挙母祭りを行っている。

中町



◎大幕 旧幕（天保六年作）神社東に「蛇の池」があったことから、波に竜を表現
◎彫刻（大正十四年作）初代 村山群鳳（高山）



◎大幕 旧幕（天保二年作）祭神の和童子の姿を白・赤・青の三段幕で表現
◎彫刻（明治四四年作）瀬川鍋三郎（名古屋）

竹生町



◎大幕 旧幕（明治二八年作）支那竹林の七賢人を表現
◎彫刻 作者不詳

旧東町



◎大幕 旧幕（嘉永二年作）中国の故事より張良が、師・黄石公の杵を拾い捧げ、兵法の書を授かることを表現
◎彫刻（天保六年作）早瀬長太郎（名古屋）

西町



◎大幕 旧幕（大正十五年作）湊川の戦いにおける楠木正成と、如意輪堂の楠木正行を表現
◎彫刻（明治三九年作）伊藤松次郎則光（名古屋）

旧南町



◎大幕 旧幕（嘉永二年作）源平の戦いにおける熊谷直実と平敦盛の姿を表現
◎彫刻（安政二年作）瀬川重光（名古屋）

旧本町



◎大幕 旧幕（明治三年作）源義経の八艘跳びと平教経の雄姿で、壇ノ浦の合戦を表現
◎彫刻（文政二年作）二代 立川和四郎富昌（諏訪）

喜多町



◎大幕（昭和五十年作）七福神を表現（旧幕は無地・天保二年制作）
◎彫刻（明治十四年作）瀬川重光（名古屋）

挙母祭り

挙母神社の例祭として寛永年間（1624～1643）の頃から、五穀豊穡を祈り行われていました。最古の記録としては、寛文4年（1664）飾奉四輜〔東町・本町・北町（現中町）・神明町）、獅子舞（南町）後に傘鉦（西町・竹生町）とあり、寛延3年（1750）には挙母藩の命により、従来の獅子舞を廃止し山奉を建造し始め安永6年（1777）に南町・西町が翌年には新北町（現・喜多町）・竹生町の飾り車ができ八輜となりました。この八輜の山車は、昭和39年（1964）に愛知県の有形民俗文化財に指定されるとともに、豊田市の指定文化財にもなっています。掛け声と紙吹雪の中を山車が駆ける勇壮なさまは、三河の三大山車祭りに数えられ多くの人に親しまれております。

挙母神社

挙母神社は、天の神（天津神）前身は衣上之神と言われ創建年代は不明。高皇産靈神、天邇岐志国邇岐志天津日高日子番能邇々藝尊、天萬耜幡千幡比売命の三柱を祀り、文治5年（1189）この地に隠れ住んだ源義経の従士鈴木重善が、後に大和国吉野から天之水分神と国之水分神を勧請し、この五柱を祀り「子守大明神」と称す。明治4年（1871）廃藩置県により県社として現在の「挙母神社」と改められました。

たかみすずのかみ あめ に
ぎしぐににぎしあまつひこひこほのにぎのみこと あめよろすたくはたはたひめのみこと
あめのみくまりのかみ くにのみくまりのかみ

